

国有林の
現場から

～地域住民と一体になった
森林づくり事業～

記念植樹を通して、 森林の公益的機能や 自然環境への理解を深めていきます

関東森林管理局

関東森林管理局・下越森林管理署村上支署では、
市民参加型の森林づくり事業として、
地域住民による記念植樹を行っています。
下越森林管理署村上支署業務課の杉山茂人さんに、
具体的な活動内容や今後の課題を伺いました。

苗畑の跡地を生かした
市民参加型の森林づくり

下越森林管理署村上支署では、国有林の管理や運営、国有林材の生産と販売、森林教室等を通じた森林環境教育国民参加の森林づくりの推進など行っています。

平成五年三月に新潟県朝日村大場沢国有林内にあつた館腰苗畑事業所が閉所となり、地理的条件の悪いこの土地をどう活用しようかと考えていた時、地域住民がいつでもだれでもが身近にふれあうことのできる里山林として整備しようと、平成十三年に職員実行によりブナを植栽したことから今回の取組が始まりました。平成十七年には、この区域をふれあいのエリア、体験林業のエリア、ブナのエリア、竹林のエリアに四つに区分し、全体を「ふれあいまの森」と名付け、地元小学生、地域住民等による看板除幕式や記念植樹を行いました。翌十八年には、人生のさまざまな節目に当たる結婚・誕生・入学・卒業・成人・新築などの記念に森林づくりに参加を一般市民に呼びかけ、一〇〇名の方の参加をいただいて、ヤマザクラ



植樹した苗木が活着かっちゃんくするように周りを足で踏む子どもたち

やカエデ、クルミ、クリなど花や実のなる木を主体に植樹を行い、一歳から八〇歳までの市民が参加した記念植樹となりました。

また、今年度はスポーツ少年団一〇〇名による植樹、体験林業などの申込みがあつたほか、竹林エリアに隣接した箇所本格的炭窯が完成し、炭焼き体験も可能となるなど、里山を活かしたさまざまな活動を行っています。これまでも行ってきた小・中学生、大学生、一般市民などを対象とした森林教室や体験林業などの市民参加型の森林づくりに加



えて、今後は植えられた樹々の成長に伴って市民の憩いの場としても大いに利用されることが期待されます。

身近な森林にふれることで子どもたちの森林環境教育に

地元の小・中学校やスポーツ少年団など、子どもたちにも積極的に参加いただいています。総合学習として森林環境教育への関心が高まって

いるなかで、子供たちにとって森林とふれあう機会は決して多くないのが現状です。記念植樹などを通して、見て、触れて、汗を流し、林業を体験することで、森林の持っている公益的機能や自然環境などへの理解が深まっていると思います。実際子供たちは、植樹した木々が成長することを楽しみにし、喜びを感じているようです。

また、これらの活動には、子どもたちのほか父母や教師の参加も多く、教育の場

としてだけでなく、地域の方々のふれあいの場にもなってきたことから、市民参加型の里山づくりが出来るかと自負しています。

この「ふれあい里山の森」以外にも、森林ボランティアの方々のご協力を得ながら、当支署管内にある「さけの森林」や「瀬波夕日の森」などの森林の整備を行っています。今後も地元の方々とふれあいを楽しみながら、市民と国有林が一体となつて美しい森林づくりを進めていきたいと思っています。



上：お年寄りから子どもまで一緒になって植樹を実施
下：苗木の説明を受ける参加者たち



小さい子とも一緒に活動します



植樹に夢中に取り組む子どもたち